

個に応じた指導の充実のための

中学校英語科習熟度別指導 ガイドライン

令和元年10月
大分県教育委員会

目次



項目	ページ
習熟度別指導の実施に当たって	1
中学校英語科における生徒の学力・学習状況と課題	2
習熟度別指導の全体構想の工夫改善 ○最も効果的な指導方法の選択 ○効果的な位置付け	3 4
中学校英語科の習熟度別指導における配慮事項	5
習熟度別指導の流れ	6
個の学力・学習状況の的確な把握	7
習熟度別指導の進め方 ○コースの設定とグループ編成 ○保護者の理解を深める	8 9
学習評価の在り方	10
習熟度別指導実施状況Check List	11

習熟度別指導の実施に当たって

生徒一人一人に学習内容を確実に定着させるためには、個に応じた指導方法や指導体制を工夫改善することが重要です。

習熟度別指導は、個に応じたきめ細かな指導の一つであり、確かな学力の育成を目指していくものです。

学習指導要領における生徒の発達の支援

中学校学習指導要領(平成29年3月告示)

第1章 総則 第4 生徒の発達の支援 1 生徒の発達を支える指導の充実(4)

生徒が、基礎的・基本的な知識及び技能の習得も含め、学習内容を確実に身に付けることができるよう、生徒や学校の実態に応じ、個別学習やグループ別学習、繰り返し学習、学習内容の習熟の程度に応じた学習、生徒の興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習などの学習活動を取り入れることや、教師間の協力による指導体制を確保することなど、指導方法や指導体制の工夫改善により、個に応じた指導の充実を図ること。

大分県における習熟度別指導の推進

～習熟の程度に応じたきめ細かな指導の充実～

1 学習評価の結果

○客観性・信頼性のある学習評価の工夫

2 学習内容の理解や習熟の程度に応じて学習集団を編成

○効果的な習熟度別指導場面の明確化

○学習集団の編成方法等の工夫

3 指導方法を工夫して、子どもの実態に応じたきめ細かい指導

○効果的な指導方法の工夫

○習熟の程度に応じた教材の工夫

「新大分スタンダード」の視点からの授業改善

新大分スタンダードのすすめ
新大分スタンダードで主体的・対話的で深い学びの実現を

「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業を目指して

- 1 1時間完結型**
主体的な学びを促す「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」
*学習の見通しをもたせ、意欲を高める「めあて」
*学びの成果を実感し、学んだことや意欲・問題意識等を次につなげる「振り返り」
*追究すべき事柄を明確にする「課題」、追究した結果を明確にする「まとめ」
- 2 板書の構造化**
*思考を整理したり促したりする板書、思考の過程を
- 3 習熟の程度に応じた指導**
*「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
*「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫
- 4 生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開**
主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)を創造する学習展開
*各教科等の見方・考え方を働かせて展開する「課題設定 → 情報収集 → 整理・分析 → まとめ・表現・交流 → 振り返り・評価」等の学習過程の繰り返しの中で行われる
・知識の関連付け、問題の発見・解決、情報を精査した考えの形成、思いや考えに基づく創造
・様々な人との対話・協働による自分の考えの深化・拡充

H31.3月版

3 習熟の程度に応じた指導

- *「具体的な評価規準」に基づく確かな見取り
- *「努力を要する状況」の児童生徒に対する手立ての工夫

「新大分スタンダード」の中にも、習熟の程度に応じた指導が位置付いています。

中学校英語科における生徒の学力・学習状況と課題

平成31年度全国学力・学習状況調査から本県の生徒の英語における学力・学習状況を分析しています。「個に応じた指導」の第一歩は、生徒の実態をしっかりと把握することです。

中学校英語
平成31年度全国学力・学習状況調査結果 (市町村立学校)

1 結果のポイント

1 全国平均との差

県	全国	全国との差
55	56	-1

○全国平均より1P下回っている。
○「記述式」の問題への対応(聞いたり読んだりしたことに対して書いて答えること)に課題がある。

4 正答度数分布

2 領域別の結果

領域	県	全国平均
聞くこと	66.4	67.9
読むこと	55.3	55.6
書くこと	45.4	45.8

○全ての領域で全国正答率を下回っている。
○特に「聞くこと」において全国との差が大きく、情報を正確に聞き取ることや、聞いて把握した内容について適切に応じることに課題がある。

3 観点別の結果

観点	県	全国平均
外国語表現の能力	1.7	1.8
外国語理解の能力	43.1	44.7
言語や文化についての知識・理解	64.3	64.7

○全ての観点において全国正答率を下回っている。
○特に「外国語理解の能力」において全国との差が大きく、話の内容や書き手(話し手)の意見などを捉えることに課題がある。

○低学力層(正答率20%以下)の生徒の割合は全国値(3.4%)に比べ3.3%と若干低いものの、引き上げが課題である。
○正答率80%以上の層が9.6%と、全国値(11.9%)よりも低く、全体的な引き上げが課題である。

英語に対する生徒の意識

①英語の勉強は好きですか

英語	55.7 (全国56.0)
国語	60.4
数学	56.6

③英語の勉強は大切だと思いますか

大分県	83.0
全国	85.4

②授業の内容はよく分かりますか

英語	62.9 (全国66.0)
国語	75.3
数学	70.7

④将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか

大分県	36.2
全国	41.3

『英語に対する大分県の生徒の意識』

- ・国語や数学と比べて、「好き」や「よく分かる」と回答している生徒が少ないこと
- ・全国と比べて、英語の勉強の大切さを感じている生徒が少ないこと
- ・将来英語を使うことに意欲を感じている生徒が少ないこと

習熟度別指導の全体構想の工夫改善

最も効果的な指導方法の選択

1. 効果の見極め

- 習熟度別指導の効果は、学校・学級の規模や生徒の学力・学習状況によって異なり、教科の特質や授業のねらい、内容によっても異なります。
- 確かな学力を身に付けさせるために、一斉指導の中で個別指導を充実させた方がいいのか、複数の教員で協力的な指導を行った方がいいのか、習熟度別のグループに分けて指導した方がいいのか、その見極めを各学校で行う必要があります。

2. 指導形態

- 系統性の強い学習内容の場合は、習熟の程度に差が生じ易いので、習熟度別の指導が効果的だと考えられます。
- 学習内容によっては、一斉指導と習熟度別指導とを組み合わせた方が効果的な場合があります。
- 習熟度別指導の設定については、一斉指導ではねらいを実現することが難しい状況にある生徒にとって効果的かどうかを判断基準とすべきです。
- ・一斉指導で「B おおむね満足できる」状況になることが難しい生徒にとって習熟度別指導は、有効な指導方法です。例えば、既習内容と関連させて課題づくりや自己の考えづくりをする場面や、既習内容が身に付いていない生徒に習得をさせる場面などで導入することが考えられます。

3. 環境の整備

- 学校に配置されている教員数に応じて、習熟度別指導が困難な場合がありますが、学校の諸条件を最大限に生かして、生徒にとって最善の学習指導や環境を構想していくことが大切です。
- ・習熟度別のグループであれば、生徒一人一人に応じた指導が容易になります。また分からないままに他の生徒と同じ歩みをさせるのではなく、ねらいの実現に向かって確実に歩ませていく指導を行うことが可能となります。

4. 補足的な学習の工夫

- 習熟度別指導と放課後などを活用した補足的な学習、家庭と連携した家庭学習の指導も関連させていくことが大切です。
- その際、生徒の生活状況も考慮し、過度な負担とならないように留意することが必要です。

習熟度別指導の全体構想の工夫改善

効果的な位置付け

一斉指導であっても習熟度別指導であっても学習のねらいは同じで、学習指導要領に示された教科の内容を確実に身に付けさせることに変わりがないことに留意する必要があります。

【参考】一斉指導と習熟度別指導をミックスさせた単元レベルでの授業モデル例

タイプ	指導の流れ・ねらい
タイプⅠ（単一型）	★習熟度別指導のみ
	生徒の習熟の差が大きく、しかも単元の主なねらいが「知識・理解」や「技能」といった基礎的な学力になる場合。
タイプⅡ（複合型）	★一斉指導 → 習熟度別指導
	単元の学習内容を指導した段階で、形成的評価を行い、評価の結果に基づいて「補充コース」と「発展コース」に分かれて習熟度別指導を行う。
タイプⅢ（複合型）	★習熟度別指導 → 一斉指導
	基礎・基本を全ての生徒たちに身に付けさせた上で、比較的高次の学習内容を集団思考で学ばせるタイプ。当該単元の前提となる知識や技能を習熟度別指導で習得させてから、一斉指導で新しい単元の学習をする場合もこの授業モデルに当てはまる。
タイプⅣ（複合型）	★一斉指導 → 習熟度別指導 → 一斉指導
	単元の始めと終わりを一斉指導にして、単元の間部分に習熟度別指導を挿入する授業モデルである。 タイプⅡとⅢを部分的に組み合わせたものである。
タイプⅤ（複合型）	★習熟度別指導 → 一斉指導 → 習熟度別指導
	タイプⅣとは逆に、単元の始めと終わりを習熟度別指導にして、単元の間部分に一斉指導を挿入する授業モデルである。

（『「少人数指導・習熟度別指導」の課題』日本女子大学 吉崎 静夫 氏をもとに作成）

中学校英語科の習熟度別指導における配慮事項

一斉指導はもちろん、特に習熟度別指導を実施する際は、生徒の困りをなくすためにも、以下のことに配慮して行いましょう。

1. 学習のねらいは同じ

一斉指導であっても習熟度別指導であっても学習のねらいは同じです。それを踏まえ、

○単元や本時の始めに、学習の見通し(めあてや目標)を生徒と共有しましょう。

○1時間の授業であれば、学習がどう進むのか、言葉での説明とともに、本時の活動の流れを黒板に記載しておきましょう。

○単元のめあて(目標＝「英語を使って、～できる」)や学習活動の流れについても、掲示や紙面で伝えるようにしましょう。

確認：中学校外国語科の目標

中学校学習指導要領(平成29年告示)

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、**簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するとともに、これらの知識を、**聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能**を身に付けるようにする。
- (2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、**外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力**を養う。
- (3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、**主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度**を養う。

2. 自分の考えを発表・交流する機会を設ける

基礎・基本の定着が不十分だからといって、教師が英語を使わずに日本語で一方向的に説明したり、ドリルや練習ばかりで終わったりする授業では、基礎・基本は身に付きません。同様に、英語科で求められる力を生徒に身に付けさせることもできません。

○学習指導要領では、必然性のある言語活動の中で、子どもたちが自分の考えや思いを伝え合う場面を設定することが求められています。

○まずは英語を使わせてみて、その後必要に応じて練習をしたり確認をしたりするなど、言語活動を通して基礎・基本の定着を図りましょう。

○子どもたちの、英語を使って思いや考えを伝える機会を奪わないように注意しましょう。

3. 効果を検証する

習熟度別指導を実施したあとは、その効果の検証を行う必要があります。

○学校では、単元テストや定期テスト(パフォーマンステスト含む)、授業中の生徒の様子やワークシート等の成果物により、短いサイクルで検証し、次の指導計画に生かします。

○市町村教育委員会では、英語教育実施状況調査や大分県学力定着状況調査、また、市町村が行っている標準学力調査等が検証の手段となります。各種調査を利用し、コース別の平均正答率や達成率がどのように変化したかを検証し、学校との連携を密にしながら習熟度別指導の改善に役立てます。

※効果のあった取組等は、積極的に情報発信していきましょう。

習熟度別指導の流れ

習熟度別指導においても、マネジメントサイクルを生かして、常に指導の改善・充実を図る必要があります。

① 習熟度の把握



多くの生徒がつまづきやすい学習内容を確認しましょう。

【評価方法の例】

- ・授業中の生徒の様子
- ・レディネステスト
- ・定期テストや単元テスト
- ・ワークシート など

学習コースによって学習活動は異なりますが、単元の評価規準は同じです。学習コースによって単元の評価規準が異なることがないようにしましょう。

② 指導計画や授業の改善

生徒の学習状況等について、評価資料を基に分析し、課題を見だし、改善策を検討しましょう。

【検討内容の例】

- ・学習コースの構成
- ・学習内容
- ・指導方法
- ・教材
- ・教員の役割分担 など

③ 習熟度別指導を位置付けた指導計画等の作成

単元の指導

※習熟度別指導推進教員を配置している場合は【例1】が基本

・単元全体の中でつまづきが予想される。

・単元の途中でつまづきが予想される。

・単元の終末でつまづきが予想される。

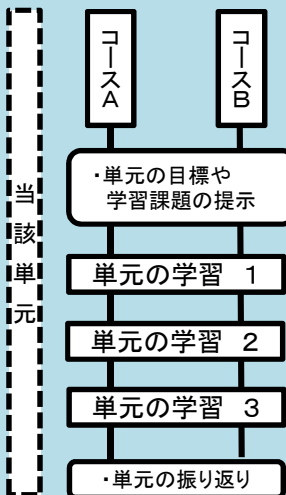
1単位時間の指導

※一人で習熟度別指導を行う場合

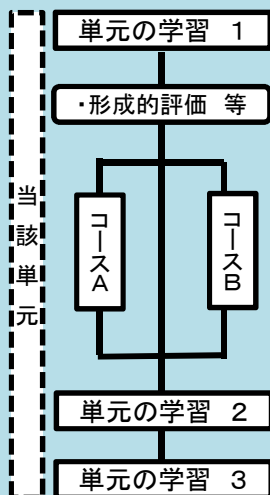
・1単位時間の中でつまづきが予想される。

各教科等の年間指導計画や単元の指導計画に改善を図る事柄などについて記述します。

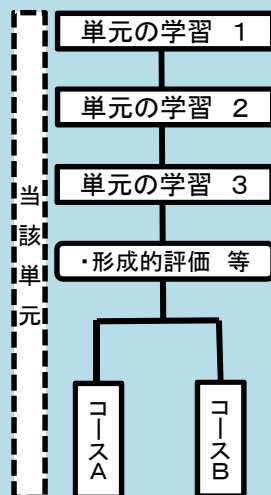
【例1】単元全体を通して学習内容の確実な理解を図る。



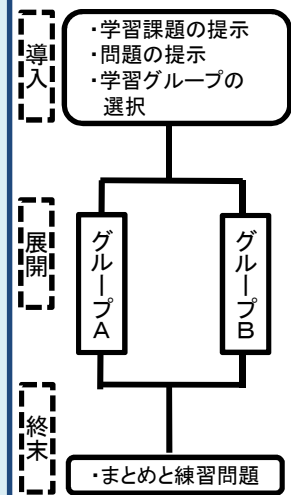
【例2】単元の途中で学習内容の確実な理解を図る。



【例3】単元末に学習内容の確実な定着を図る。



【例4】1単位時間に学習内容の確実な定着を図る。



④ 指導計画に基づく授業

⑤ 効果の検証

習熟度別指導は、各教科等の目標の実現、学習内容の確実な定着をねらいとする指導方法の工夫の一つです。そのため、実施することが目的とならないよう留意することが大切です。

個の学力・学習状況の的確な把握

習熟度別指導において、個に応じた指導を適切に行うためには、個の学力・学習状況の的確な把握が必要です。多様な方法を用いることによって、より確かに把握することができます。

1. 診断的評価

【テスト】【意識調査】

- ・レディネステスト:新しい単元に入る前に、生徒の既習内容の定着状況や単元の学習内容に関わる興味・関心、見方や考え方、知識・技能などを把握する。

2. 形成的評価

【観察】

- ・授業における発言や態度を観察する。その内容や状況を記録し、学習内容の定着状況を継続的に把握する。
- ・顕著な様子を記述し、個の学習に対するよさや課題を把握する。

【ノート・作品】

- ・記述内容等から、学習内容に関わる知識・技能の定着状況や、見方や考え方の変容を把握する。

3. 総括的評価

【テスト】【意識調査】

- ・単元末、学期末テスト:単元や学期の学習内容の定着状況を把握する。
- ・意識調査:学習に取り組む姿勢、学習に対する成就感や充実感を把握する。

4. 自己評価

- ・自分の学習状況についての自覚の深さ、学習に対する成就感や充実感を把握する。

学校全体の取組として

- 多様な方法を活用して、継続的に学力・学習状況の把握ができるように年間の計画を立てる。
- 教師が把握した生徒の学力・学習状況について互いに交流する場を設ける。
- 研修を行い、生徒の学力・学習状況をとらえる教師の力量を高める。



教師の負担感を軽減し、作業の効率化を図り、続けることが大切です。

習熟度別指導の進め方

コースの設定とグループ編成

学習の効果を上げるためには、学習集団を年間通して固定せず、単元や学習内容によって柔軟に編成することが大切です。以下の点に留意して、編成等を行っていきましょう。

1. コース選択は、生徒と保護者が決定する

コース選択は、教師のアドバイスを受けながら、最終的には生徒と保護者が納得して決めるようにすることです。そこで、次のような配慮が考えられます。

- ①教師は、学習指導のプロフェッショナルとしてレディネステスト、1毎時の振り返り小テストや単元末テストなど多くの判断材料から、その生徒にとって最もふさわしい学習コースを生徒との信頼関係に基づいて推薦することを基本とします。
- ②そこから先の最終決定は、あくまでも主体的に学ぼうとする生徒本人が保護者と相談して納得して行うことが大切です。また、適宜見直していくことも必要です。

コース選択の配慮をしっかりと行うことで、生徒と保護者の不安が解消されます。

2. 単元ごとにコース選択・コース変更を認める

それぞれの生徒が参加する習熟度別コースは固定化しないように配慮します。1年間を通して同じレベルの習熟度別コースに所属すると、以下のようなことが懸念されます。

- 努力して学力を向上させようとする意欲が低下する。
- クラスの生徒を固定的な学力像で見失ってしまう。

単元ごとに生徒の学習意欲や習熟の状況を丁寧に見取り、単元ごとにコース選択とコース変更を認めるようなシステムを取り入れることが大切です。

3. 普通教室で複数の習熟度別コースを設定する場合

習熟度別コースを同じ授業の中で設定する場合には、次のような配慮が必要です。

生徒が自主的に取り組むワークシートや課題を習熟の程度に応じて複数用意しておいて、教室内で自由に選択ができるようにしておきます。



各コースで活用した学習プリントをコースにかかわらず自由に得ることができるようにするなど、すべての教材を生徒全員分用意しましょう。

習熟度別指導の進め方

保護者の理解を深める

生徒の学力・学習状況や学習の内容・方法について保護者に説明し理解を得ることは、習熟度別指導に限ったことではありませんが、習熟度別指導においては、保護者の不安や疑問が予想されることから、特に必要になります。

保護者への情報提供については、学校全体で伝えることと、学年や担任（教科担任）が伝えることを整理して行いましょう。

1. 生徒と保護者へのガイダンスを丁寧に行う

指導上の配慮だけでなく、PTA総会や学級懇談会などのあらゆる場面を利用して各学校及び学級の教育目標や経営方針と共に、学力向上のための方策やそのための計画、その中に位置付けた習熟度別指導の意義と方法について、資料に基づいてしっかりとした説明責任を果たす必要があります。

生徒たちには、習熟度別指導の大切さと配慮事項について、丁寧に説明するとともに生徒にも考える時間を保証します。

2. 公開授業を積極的に行う

習熟度別指導の様子については、学校公開日や参観日などの機会をとらえて積極的に保護者に向けて公開し、次のような配慮を心がけます。

【例】

○生徒たちが、英語を使って自分の考えや思いを話したり書いたりしている。

○生徒たちが、英語でやり取りをしたり、お互いの書いたものを読んでアドバイスし合ったりしている。

○教師が、生徒の理解の程度に応じた英語を使って、生徒が英語に触れる機会を確保している。

このような様子を保護者が見る機会が増えれば、保護者の「分けられていることへの不安」が「分かれて学ぶことへの期待」へと変わっていくことが予想されます。



3. 保護者アンケート等を実施する

公開授業を行ったあとや、習熟度別指導を実施したあとに、生徒はもちろんのこと、保護者にアンケートを行い、結果を今後の指導や保護者への広報活動に反映させることが大切です。

学習評価の在り方

- ◇生徒の学習状況の的確な評価を行って、はじめて生徒の次の学習への動機付けや学習結果の診断が適切な指導方法の改善につながります。
- ◇学校や教師には生徒や保護者への説明責任だけでなく、指導の結果責任も問われます。特に、生徒の学習状況や総括的に捉える評定については、コースを理由として差が生まれないことを生徒や保護者に丁寧に説明する必要があります。

各学校では、以下の点に留意して、組織的・計画的な取組を推進し、評価の妥当性、信頼性を高めることが求められます。

(1) 目標に準拠した評価

- ・どのコースにおいても、単元の目標の実現状況の評価するものとなります。
- ・そのため、単元の評価規準はどのコースにおいても同じものにします。

(2) 評価の妥当性

- ・教科部会において、どの学習活動において、どういう観点から評価していくのか共通理解を図ることが不可欠となります。
- ・評価結果については、根拠となる生徒の姿を示すなどして吟味していくことが大切です。
- ・日常的に担当者同士で生徒の姿を交流し、生徒の学力や学習状況を多面的に捉え指導に生かすことによって、評価の妥当性も高まります。

(3) 評価の信頼性

- ・習熟度別指導とその評価について、保護者に丁寧な情報提供を行うようにします。
- ・評価の趣旨や方法について理解したり、我が子のコース別の学習状況を把握することによって、習熟度別指導に対する不安感が解消されることとなります。
- ・評価を生かして家庭学習の充実を図り、学校と家庭が連携して生徒の学力向上に努めることも大切です。

(4) 評定の留意点

- ・生徒の学習状況を総括的に捉える評定については目標に準拠して行い、コースを理由として差が生まれないことを、生徒や保護者に丁寧に説明する必要があります。
- ・例えば、「主として復習を重視するコースで学ぶ生徒に高い評定「5」を付けないということではない」といった点に留意することが大切です。

『個に応じた指導の手引き』 H29.3 大分県教育委員会より抜粋

- ◇学校においては、評価の結果によって後の指導を改善し、さらに新しい指導の成果を再度評価するという、指導に生かす評価を充実させることが重要です。
- ◇評価方法については、観察、生徒との対話、面接のほか、ノート、ワークシート、学習カード、作品、レポート、ペーパーテスト、パフォーマンステスト、質問紙の記述内容の読み取りなど様々な方法があります。授業のねらいに基づいて評価の観点を設定し、的確に評価できる方法を選択していく必要があります。

習熟度別指導実施状況Check List



習熟度別指導の実施において必要な取組ができているか、チェックリストで確認し、今後の取組に役立てていきましょう。

	必須事項	確認事項	チェック欄
指導方法・指導体制等	○全体構想の工夫改善【P3～P6】	○学習指導の全体構想(学力向上プランや年間指導計画)を見直し、各指導のねらいや内容を明確にしている。	
		○生徒の学習状況を踏まえ、単元や学期、年間の指導計画等の評価ができている。	
		○習熟度別指導と放課後などを活用した補足的な学習、家庭学習の指導を関連させている。	
		○特別な支援を要する生徒に対して、教材・教具等を工夫して活用している。	
	○習熟度の把握【P7】	○4技能それぞれの習熟の程度について、多様な方法を用いて情報収集ができている。	
		○生徒の習熟度を把握し、基礎資料を作成して個に応じた指導に活用できている。	
	○学習集団の編成【P8】	○学習内容の特性や生徒の習熟の状況等に応じて学習集団を編成している。	
		○コース(グループ)は固定化することなく、計画的な編成となっている。	
		○コース(グループ)決定の際には、教師の指導や推薦のもと、生徒や保護者の意向を取り入れている。	
校内の推進体制等	○校内実施計画の作成【P6、P7、P10】	○実施計画等を作成している。	
		○効果測定・検証を実施する計画になっている。	
	○説明・情報公開等【P9】	○生徒と保護者へのガイダンスを行っている。	
		○公開授業を積極的に行っている。	
英語指導等	○学習のねらい【P5】	○学習のねらいは同じものを設定している。	
		○生徒の、英語を使って思いや考えを伝える場面を保障できている。	
	○英語の授業改善【P5、P9】	○生徒に身に付けさせたい力を意識して、ゴールを意識した単元構成、言語活動の充実を設定している。	